別紙 2

事業計画書:3 年周期循環型「闇バイト防止・ネットリテラシー教育」計画

作成者：[redacted]中学校 PTA 会長 [redacted]

1. 計画のコンセプト

「体験・知識・対話のローテーション」 単発イベントで終わらせず、3 年間で「①衝撃的な体験(レイの失踪)」、「②リアルな知識(警察講話)」、「③自律的な対話(ワークショップ)」のすべてを経験できるカリキュラムを構築します。

2. 予算・積立計画(サステナブル・モデル)

高額な有料コンテンツ(200,000 円)の負担を単年度に集中させず、3 年間で平準化(年75,000 円)します。(利用人数 300 名まで 150,000 円。301 名から 1 名につき×500円に消費税)
実施プラン:「レイの失踪」コンテンツのみ利用プラン(200,000 円)
積立ルール: 実施のない年に75,000 円ずつ積立を行い、3 年ごとの実施年に取り崩します。

サイクル	年度	実施内容	予算措置額	会計処理	備考
第 1 期	1 年目	レイの失踪	200,000 円	【支出】	初回は補助金で実施
	2 年目	警察講話(無料)	75,000 円	【積立】	次回用積立 (残高 7.5 万円)
	3 年目	参加型 WS(無料)	75,000 円	【積立】	次回用積立 (残高 15万円)
第 2 期	4 年目	レイの失踪	75,000 円	【取崩+支出】	積立15万+単年度7.5 万=23.5万円で実施
	5 年目	警察講話(無料)	75,000 円	【積立】	次回用積立 (残高 7.5 万円)
	…	…	…	…	以降、繰り返し

※物価・税率変動への対応条項: 消費税率の変更やサービス価格改定により総額が変動した場合は、実施年度(4 年目など)の単年度予算額(75,000 円部分)を増減させることで調整し、積立計画自体は崩さない運用とします。

---

3. 3ヶ年カリキュラム詳細

このサイクルを回すことで、生徒は**「1 年生・2 年生・3 年生のどこかのタイミングで必ず『レイの失踪』に当たる」**ことになります。

【1 年目】高没入体験:ゲーム型教材「レイの失踪」

別紙２

- 内容: Classroom Adventure 社の「レイの失踪」コンテンツを利用し、先生方が進行を行います。
- 形式: 教室での謎解きシミュレーション
- 目的: 「楽しそう」という入り口から、闇バイトの恐怖（一度入ると抜け出せない心理的拘束）を疑似体験させ、強烈な記憶を残します。
- 費用: 150,000 円＋（301名から１名につき×500円）＋税

【2 年目】知識の定着：警察・専門機関による「リアル講話」

- 内容: 福岡県警（[redacted]警察署 生活安全課 または 県警サイバー犯罪対策課）を招聘。
- 形式: 全校集会 または 学年別講話
- ポイント:
  - 前年に「レイの失踪」を体験した生徒（新 2・3 年生）には、「あのゲームのようなことが、実際に北九州市でも起きている」という現実への接続を行います。
  - 警察官ならではの「実際の検挙事例」「誘い文句のスクリーンショット」などを見せ、法的責任の重さを伝えます。
- 費用: 0 円（講師謝礼不要）

【3 年目】意識の深化：PTA・先生による「参加型ワークショップ」

- 内容: 動画視聴・討論＆クロスロード・ゲーム（闇バイト編）
- 形式: 教室または体育館での参加型学習
- ポイント:
  - 「欲しいものを買うために高額バイトをするのはアリ？ナシ？」「友達がやっていたら止める？止めない？」といった正解のない問いを投げかけます。
  - 保護者も参加し、大人の意見と子どもの意見の違いを可視化します。次年度の「レイの失踪」実施に向けた機運を高める年とします。
- 費用: 0 円（YouTube 等の公的無料教材、自作カード作成）

---

4. この計画のメリット

1. 教育の公平性: 3 年周期で実施するため、どの学年の生徒も在学中に一度はメインイベント（レイの失踪）を体験でき、不公平感がありません。
2. 予算の安定化: 毎年7.5 万円という定額予算で済むため、PTA 会計の見通しが立ちやすく、役員改選があっても計画を引き継ぎやすくなります。
3. マンネリ防止: 「ゲーム体験」→「警察の話」→「討論」と毎年形式が変わるため、生徒が飽きずに防犯意識を持ち続けられます。